

## 我が社の雇用事例

# 但馬どり

Tajimadori

## 株式会社但馬どり

### 企業DATA

代表者	代表取締役 島原道範 〒669-5315
所在地	兵庫県豊岡市日高町浅倉45番地
従業員数	168名 障がい者7名 (内訳：身体障害者1人 知的障害者6人)
URL	<a href="https://tajimadori.co.jp/">https://tajimadori.co.jp/</a>



当社は、鶏肉の生産から製品づくり、配送に至るまで一貫したシステムのもと、人々が一番大切にする健康を食文化の中で常に研究しています。また、お客様のニーズに的確にお応えするべく『安全で、味の良い、新鮮な鶏肉』づくりを柱として、さらにご満足いただける商品造りを行っております。「社会に貢献する」という企業理念に基づき、消費者の立場に立った食文化の向上を常に目標に掲げ、それを実現する事が私たち従業員の願いです。

## インタビュー

### ■ 障害者の雇用の経緯について ■

当社は、平成27年に鳥取県の(株)大山どり、徳島県の(株)阿波どりを抱える大山どりグループ傘下の一員となりました。大山地区で開催していたびっくり市(鶏肉販売)を但馬地区でも開催し、その中で障害者の方と

のふれあいを進められる様、鶏肉だけでなく障害者自身の作ったもの(クッキーやお花など様々なもの)を販売しました。そのイベントがきっかけでハローワークやNPO法人などとかかわりが出来、社内でも障害者の方を雇用出来る職場環境を整備していったという経験があります。

びっくり市も昨年末で開催50回を迎えることができ、年間約1万人のお客様が来場されています。

現在の障害者雇用者は計7人(内訳：身体障害者1人 知的障害者6人)となっており、主にハローワーク・就労支援機関からの紹介による採用です。

まず実習で受け入れ、単純に障害の内容だけではなく、それぞれの個性を踏まえて作業体験してもらってから担当してもらう作業内容を決めています。保護者の方にも事前に相談をさせて頂いた上で、性格や気を付けないといけないところなどを把握した後に実習を進める方もいます。実習期間は基本的に1週間ですが、状況によって2週間程度に及ぶ場合もあります。

障害者に対しては  
指導する者がどのように  
教えたらいかがかを  
考えて行動する。

## ■ 障害者への取り組み・課題について ■

重要なことは、受け入れ側の意識改革です。障害者の方への偏見を無くし、一緒に仕事する仲間とっていただけるよう作業工程などの見直しをして、お互いストレスが無いような環境作りが大切だと思っています。



また、現場の健常者には、障害者では仕事が出来ないと考えるより、先ず指導する者がどのように教えたら良いかを学びなさいと伝えています。そこから何かの答えが生まれて、その過程でマニュアルを見直し、上司・同僚も障害者と一緒に成長して行こうとしています。

原則として、待遇は健常者と同じになります。年1回の社員旅行なども同じ扱いとしています。今年は海外（シンガポール）を予定しており、皆さん楽しみにしています。

## ■ 障害者のお仕事について ■

飼育から販売（ニワトリを育てる（約45日程度）⇒鶏肉加工⇒出荷⇒販売）までの工程で、障害者が担当しているのは鶏肉加工と出荷梱包作業になります。基本的には機械化で対応していますが、どうしてもニワトリの大きさや成長度合いによって作業内容が同一になりません。

機械だけでは処理しきれない部分があり、その部分を補完する作業をしていただいています。難しい作業は機械で行いますが補完作業は比較的多くある為、障害者の方の業務の切り出しが比較的やり易い仕事だと思えます。障害者の特性に合わせて、どこのライン作業を担当にするのかを選定しています。鶏肉を機械にセットする作業や、機械化で処理しきれない部分は品質を維持する為に実際に目視での確認取り除く作業などがあります。原則として障害者も健常者と同じ作業をしてもらっています。

現在の障害者の仕事は、①社内の備品・衛生用品の補充に1人、②商品の発送業務（段ボール等の梱包など）に1人、③食肉加工処理に3人、④かごの洗浄に1人、⑤残渣の加工処理（飼料などの原材料製造）に1人となっています。そのうち5名は今年1月から正社員へ転換になりました。

## ■ 雇用環境管理サポート体制について ■

安全面が一番と考えており、例えば、床には滑りづらい塗料を使用したり、冷蔵庫の床には氷が出来ないように特殊なライトを設置する等をしています。また、包丁を使用する仕事もあり、切傷防止手袋の着用を徹底していますし、てんかんなどのある障害者の方へは、頭部を守る軽量のヘルメットを着用して作業をしてもらっています。

大半の障害者の方は一つの事に集中する能力は低くなく一定の配慮をすれば、安全面で大きな問題になるケースはありません。ただ、作業に入る前の準備段階（手洗い・作業着への着替・髪の毛の処理・エアシャワー等）を覚えるのに少し時間がかかり、出来るまで困惑する方が多いと感じることはあります。障害者からの質問に対しては、上司が対応しており、不安の無い環境作りを目指しています。

## ■ 今後、障害者を 雇用する企業様へ ■

障害者というだけでその仕事は難しいと決めつけて考える人もおられると思うのですが、実際に雇用すれば業務のハードルは決して高くはないと感じています。多くの分野で戦力になることも多く、特に単純作業で反復する作業は、特化すると健常者より優れているところが随所であり、障害者の可能性を日々感じています。



## 障害者インタビュー

西垣 誠一さん



入社して、3年ぐらいになります。

前職をコロナの関係で退職することになり、その後NPO法人プロジェクトプラス（就労支援機関）から紹介を受けて、但馬どりへの就職が決まりました。実習期間中は3種類ぐらいのお仕事を体験させてもらいました。現在はかごの洗浄とフリーザーへの投入や梱包の仕事をしています。

フリーザーの仕事は、パックした鶏肉を気温零度に冷やす機械に投入する作業を担当させていただいています。意外とコツがありうまく出来るようになった時はうれしかったです。梱包作業もしていますが、その作業が一番自分に合っていると感じています。初めは失敗することもありましたが、上司の方が優しく教えてくれました。

働いて良かったのはコロナ禍の中でも仕事があったことです。先輩に聞くと、この業種は年間を通じてニワトリを育てる期間と製造する期間がうまく物量的にマッチしていて、仕事のバランスがとても良いとのことでした。

優しい社員さんが多いので、コミュニケーションも楽しめる時間のひとつです。知らない分野でのおしゃべりも知識を増やしてくれます。もっと多くの体験もできればうれしいです。今の目標は旅行に行くことです。社内の企画で旅行がありますので、そのために貯金をして参加したいと思えます。

通勤に約1時間程度掛かっていますが、体調管理をきちんとして、元気に今後もこの職場で働き続けていきたいと思っています。